

教育活動の充実をめざして



1993. 2. 1

第91号

編集・発行
 福島県教育庁
 会津教育事務所
 吾妻 幹 廣

編集協力
 北会津・耶麻・両沼
 地教委 連絡協議会
 小・中 学 校 長 会

新学習指導要領の趣旨の実現をめざした教育課程

教育課程の編成に当たっては、新学習指導要領の理念やねらいを受けて、それぞれの学校が創意工夫を生かして責任をもって編成することが一層明確にされた。

ここでは、教育課程の編成に視点をあてて考察する。

一、児童生徒一人一人の自己実現を支援する考え方を基本にして

児童生徒が、児童豊かな主体的創造的に生きる事ができる資質や能力の育成を図る教育の実現のために、「新しい学力観に立つ教育」と「子どものよさを生かす教育」の実践を通して、児童生徒一人一人の自己実現を支援するといふ考え方を基本として、教育活動を創造し展開できる教育課程を編成することが大切である。

二、より具体的な指導内容を組織して

新学習指導要領に示された各教科等の目標達成のための内容を基にしながら、各学校においては、地域や学校の実態および児童生徒の特性等諸条件を踏まえ、より具体的な指導内容を選択し適切に配置

するなど、一層の創意工夫が望まれる。

その際、自ら学ぶ意欲を培うためにも、問題解決的な学習や体験的な学習を十分に取り扱うことができる場と時間を位置づけた各学年の年間指導計画の作成が大切である。

三、各中学校での選択履修の幅の拡大を

生徒の個性を生かす教育の一層の充実を図る観点から、自校の教育目標との関連を図りながら、人的・物的条件の下で、生徒の能力・適性・興味・関心等が最大限に生かされる多様な学習活動が展開できるように、選択履修の幅の積極的な拡大を図る必要がある。

ここ何年か子育てのむづかしさを痛感させられてきた。小さい頃は、子どもの元気な姿を見ては満足していたのであったが、成長するにしたがい論争することが多くなり、また、叱る回数も増えていった。

これは親の子に対する期待の表れであり、人の道を踏みはずさせたくないという願いであったわけであるが、子どもが予想をかけ離れ、反抗をむき出しにしてきた時には、頭をかかえるばかりであった。

その子がやっと成人し、親とわだかまりなく話すようになった今、心の中に残っているその当時の言い分を聞いてみると、「親の心子知らず」と思っていたのに、「子の心親知らず」でもあったということがわかり、親子の間でかみ合わなかつたがれをうめられずに来てしまったという悔いが残る。

価値観の多様化している現

歯車をかみ合わせて

会津教育事務所管理課長

齋 藤

健

代、教育の場においても、子どもたちを指導していく先生方のご苦労は容易なものではないだろうと察せられる。いろいろなか場で愛情を注がれて指導にあたっておられる姿を拝見する。そんな

中でも、かみ合わない部分もあり、悩みつつ努力されておられることもあると思われる。

特に、親と子の、あるいは教師と子どものことに関して社会問題として取り上げられたりすると、なお、そのむずかしさを痛感させられるのではなからうか。

植物においては、栽培の技術が進歩し、同じ方法で育てれば同じように美しい花ができるが、個々の人格をもつ人間を育てる教育においては、そのような定石はない。

愛情と信念をもって、一人一人の子どもたちとどう歯車をかみ合わせ、教育に当たることができるかを研鑽していくことが大切になると考える。



* *

中学校 数学科

喜多市立第三中学校
小島 修一郎



自ら学ぶ意欲を高め主体的な学習の仕方を見につけるため、日常の授業において取り組んでいる内容は次のとおりである。

一、個を生かすための学習の記録
生徒一人一人を配慮するために続けていることとして、「数学の学習の記録」がある。授業の終わりに生徒は学習の要点、反省、質問等を書き、毎時間提出し、教師からも一言書いて返す。これは、授業の情意面の評価であると同時に、生徒と教師の信頼関係を育てることも非常に効果的である。

二、基礎・基本の定着を図るための形成的評価
豆テストを計画的に行い基礎・基本の定着を図っている。また、最小限必要な用語や文章などは、全員ができるようになるまで繰り返しテストしている。

三、意欲を高める課題の設定
生徒の興味関心を喚起するため、生活に密着した課題や作業を伴う課題を多く取り入れている。目で見て手で確認することにより、頭だけでなく身体全体で理解できるようにしている。

中学校 美術科

猪苗代町立猪苗代中学校
長沼 貞子

新学習指導要領の趣旨を生かした わたしの実践

美術科の授業時数が削減されつつある現状の中で、生徒の創造力・表現力を発揮させ、生徒一人一人が満足感や成就感を得る授業を展開することの大切さを痛感する。

中学一年生の「身近な風景」を題材とした実践の一部をここに述べてみたい。

つまづきを解決する手だてとして、風景描写における基

礎的・基本的事項を理解させつつ、個別指導を重視した授業の組み立てに心がけた。さらに制作の具体的な見通しに立つて学習が主体的に展開出来るように、制作手順・評価表を作成し、毎時の授業の終わりにまとめと評価項目にそった自己評価をさせ、教師の指導も加えた。このまとめと指導事項は、次時の学習の発展的



作品を取り上げ、それぞれの努力点を認め合い、尊重しながら学習できるように配慮している。

研究校紹介

思いやりの心を育てる 楽しい学校給食

平成四・五年度の二年間、
県教育委員会・県学校給食会・
町教育委員会から「学校給食
改善研究校」の指定を受け、
研究を重ねている。

塩川町立塩川小学校
いやりの心を育てる楽しい学
校給食」とした。

研究のねらいとして

一、給食を通して、望ましい人間関係を育て、食べ物を大切にしている児童を育てる。

二、給食を通して、思いやりや協力の心を育て、感謝の気持ちを持つことのできる児童を育てる。

三、楽しい食事ができるように協力し、環境を整えることのできる児童を育てる。

四、食事のマナーを身につけ、食べる人、洗う人のことまで考え、準備や後始末ができる児童を育てる。

五、栄養に関心を持ち、好き嫌いをなく食べられる児童を育てる。

とし、今まで指導計画の見直し、学級活動の授業研究・給食参観・ふれあい給食等の実践をして来た。

児童の主体性を重んじ、自ら考え・工夫・改善するため援助者となり、子どもたちが見える研究となるよう実践を重ねていきたい。

本研究を、新しい学力観に立ち、感動する心、思いやる心、すこやかな精神と身体、基本的生活習慣等の資質を身に付けさせること、本校の教育目標の具現化を図る、学校教育活動の分野の一つに位置づけ、学校給食だけの研究にならないことを共通理解し、研究を進める基本的な考えとした。

本来、食事は楽しくあることが第一と考え、主題を「思

心に残った人々

磐梯町教育委員会教育長 高橋 定孝



今から四十数年、物理の授業時間に新任の先生が話された言葉が鮮明に残っている。

多分、慣性か運動の法則の説明に関連してのことだったと思うが、一言「自然はものぐさで

ある。「人間も本来はものぐさであるので、楽をしたために、いろいろ道具などを工夫してきたのだ。」と結ばれた。

当時、ものごとを平面的に理解するのが精一杯の生徒にとって、この一言は新鮮で、その中に奥深いものを感じたのであった。

その後、私が会津短大に在職中に、幸運にもその恩師を短大にお迎えすることになった。

会津に四年制大学を設置できるかどうか方向づけがなされる難しい時期であった。ある酒の席で先生は、「会津

に大学ができれば、家をとたんで夜逃げするしかないなあ。」と笑いながらおっしゃられたことがある。

当時、学内の強い世論により無理を承知で出馬をお願いした経過もあったので、この一言には胸を打たれる思いがあった。

師表という言葉があるように、先生は今なお教養の鑑である。



弥陀の念力を借りた共同祈願の象徴物件のように考えられる。

四基とも自然石でできており、また造建以来六百年余りという古きから磨滅して文字はほとんど読めず、わずかに蓮華座



りを進めて
いる市にあ
つて、数少
ない木造校
舎は都市景観形成にとって重
要な役割を果たすものである
と、強硬に反対意見を唱える。
一方、解体を決定した当局
は、市の教育委員会であり、
教育現場としての改築計画を

随想

二、三日前のニュースを見てみると、
函館市における木造校舎の解体について
論議がなされていた。
反対派は、伝統あ
る建造物を生かしたまちづく
りを進めて

学校教育とまちづくり考

会津若松市父母と教師の会連合会会長 宮 森 泰 弘

促進するものであると同時に、
歴史的建造物としていかなが
ものかというコメントがな
れていた。

私は最近ある団体のメンバ
ーとしてイタリアを視察する
機会を得た。たしかに経済問

都市づくりと、それが生みだ
す世界的なデザイン力、自然
を大切にしたい農業などを目
のあたりにした時、わずかに二
十年のバブルの繁栄が狂わせて
しまった日本の伝統観や歴史
観を、否、能率・効率優先の
考え方を、
教育の現場
にまでおし
つけて来て
しまつてはいなかったであろ
うかと、バブル経済の崩壊し
た今、自戒の念を抱いた次第
である。



道ばたの文化財

北山(漆)の石仏

北塩原村社会教育係長 佐藤 信 寛

耶麻郡北塩原村北山にある
「北山(漆)の石仏(イシボ
トケ)」と呼ばれている四方
仏は、普通の碑の数倍の大き
さを持った自然石に若干の加
工を施し、弥陀信仰の象徴を
刻んだ碑石である。北山集落
を中心として東西南北の四方
に配置されて
おり、いづれ
も同型、同大
の碑石である。
この碑は、
その大きさや
集落の四方に
配するといっ
た構想からみ
ても個人祈願
のものとは考
えられず、
道祖神や
道切り信
仰のよう
に集落へ
の悪霊の
侵入を拒
むため、

や種々の痕がたどれる程度で
ある。南碑には、一念弥陀仏
応永二年等の文字が判読でき
るが、他の三碑にも同じ趣向
の刻みがあったものと考えら
れる。

現在は、ほとんど拝祀の対
象となっていないが、当時全
国を風靡した浄土教の弥陀信
仰との特殊な場合の一遺構と
して、これに接する者にそぞ
ろにその由緒を回想させ、万
人の心の底にほのかにともる
信仰の灯をかきたててやまな
いものがある。

昭和六十一年三月六日に村
の文化財に指定されている。
注(漆)：集落名の通称
(出典「北塩原の民俗」)

新任教職員コーナー

わたしの抱負



洋上研修に参加して

会津若松市立門田小学校
教諭 渡邊 早由美



十一日間の洋上研修に参加できました。

初めは期待と不安が交錯しましたが、終わる頃には言い知れぬ充実感と満足感で一杯でした。
洋上研修での数々の貴重な体験は、感動の連続でした。中でも最高の収穫は、人と人との心の結びつきの素晴らしさを体験できたことです。全国各地から全く見ず知らずの初任者が集まったわけですが、様々なチーム活動や夜を徹して論じ合った研究活動、香港地活動などを通して、心の強い結びつきができ、解散時には握手し合い泣いて別れたことが、今でも強く心に残っています。
洋上研修という貴重な体験を無駄にせず、今後の私の教師生活に十分に生かしていきたいと考えています。

触れ合いを忘れずに

会津高田町立尾岐小学校
教頭 滝沢 敬樹



小春日和に誘われて校庭に出ると、何人かの子

どもたちが、「先生、見て、見て。」とやってくる。そして、私を校庭の隅の鉄棒のところへ引いていくと、自分のできるようになっていたいろいろな技を見せてくれたり、私に新しい技をせがんだりする。
そんな時、子どもたちは、素直に自分の喜びを表現したり、ふと困ったことを相談してきたりもする。私にとっては、直接子どもと触れ合うことのできる貴重な時間にもなっている。
新任の教頭として半年あまり、つつい仕事に追われ子どもたちの姿を見失いがちななる。学校の運営に当たって、子どもたちの思いや願いを常に忘れない教師でありたいと願っている。

学校は楽しいところ

西会津町立群岡中学校
校長 佐藤 輝雄



「おはようございます」とあいさつをする生徒の笑顔

は何よりの励みである。
学校は生徒にとっても、教師にとっても楽しいところである。なければならぬと常々思っている。そのためには最低でも
。大切にされているという意識
。授業での成就感
の二つを教師・生徒の両者に抱けるように心がけている。
本校では、一人一人の教師や生徒が自分の担当分野や得意な分野で意欲的に活躍し、学習・運動の両面でそれなりの成果をあげてきている。
小規模校なるがゆえに、一人何役もこなし、熱心に活動している姿に接し、私も毎日が楽しく、幸せをかみしめている。

指導課短信

学校訪問を終えて

平成四年度の学校訪問も各市町村教育委員会並びに各学校のご協力により計画どおり終了することができました。

昨年度から、計画訪問の形態については、指定授業をなくし、各学校の実態に即して、形式や内容等を見直した授業分科会を実施しております。これは、

一人一人の先生方の個性を生かす視点から有効であったと考えます。

指導課内の反省から主なものを挙げます。

。新学習指導要領の趣旨の実現を目指し、積極的に取り組んでいる姿勢が見られる。(小学校)

。基礎的・基本的事項の確かな定着、「個に応じた指導」、「児童生徒主体の学習」などについて具体的な話し合いの場を十分に設定することができた。

。今後は、「新しい学力観に立つ学習指導」について、より具体的な手立てを考えるとともに、評価の在り方について検討することが必要

教育事務所から

である。

平成四年度

教職員研究論文審査結果

本年度、会津管内からは昨年度の二倍を越す十六点の応募がありました。

県審査においては、特選が一点、入選が一点という結果でした。

◇特選 滝沢玲子先生(磐梯中)「自ら考え、判断し行動する生徒を育てる道徳教育——学級における指導計画に基づく学級経営を通して——」(道徳)

◇入選 石本浩一先生(片門小)「個に応じた指導法の工夫」(算数科)

この他の論文も、それぞれ特色のあるすばらしいものでした。

次年度の応募に当たって、次の点に注意すればさらによりよくなると思われま

す。

一、テーマを絞りこむ。

二、仮説を検証しやすいものに構成する。

三、既に明らかになっていることと、自分の取り組みをしっかりと区別する。

四、資料を論文にあわせ、精選する。